

## 令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
国語表現	3 年総合ビジネス科	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 東京書籍 国語表現（東書 国表 7 0 2） <input type="checkbox"/> 問題集 東京書籍 ステップアップ日本語講座
------	---

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	4 0 %	2 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> <b>〔知識・技能〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。</li> <li>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、適切な表現や言葉遣いを理解し使い分けている。</li> <li>・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <b>〔思考・判断・表現〕</b> <b>〔話すこと・聞くこと〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場に応じて話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、内容を検討している。</li> <li>・電話での適切な表現を理解し、コミュニケーションをとることができる。</li> <li>・自分の考えや主張が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用い、論理の展開を考えるなど、展開や構成を工夫している。</li> <li>・相手の反応に応じて言葉を選んだり、資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</li> </ul> <b>〔書くこと〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に説明したり根拠を示したりするなど、表現の仕方を工夫している。</li> <li>・適切な根拠を効果的に用い、反論などを想定して、論理の展開を考えるなど、文章の展開や構成を工夫している。</li> <li>・手紙での適切な表現を理解し、コミュニケーションをとることができる。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <b>〔主体的に学習に取り組む態度〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読んで、社会で必要とされている表現のあり方について考え、学習の見通しをもって自分の表現に生かそうとしている。</li> <li>・自分を表現する活動を通じて、分かりやすい説明やスピーチなどに必要なことを粘り強く理解しようとし、言葉選びや言葉遣い、情報の整理などの観点から、表現や説明の仕方を改善しようとしている。</li> <li>・小論文を書く活動を通じて、設問に応じて主張を組み立て、根拠を明確にしながら論じることを粘り強く理解し自らの文章を改善しようとしている。</li> <li>・本を紹介する活動やプレゼンテーションを行う活動を通して、相手に伝わる表現を工夫し、説得力のある提案に必要なことを粘り強く理解し、実践しようとしている。</li> <li>・文学作品の創作に意欲的に取り組み、粘り強く表現の仕方を工夫している。</li> <li>・学んだことをきちんとノートやプリントにまとめ、提出することができる。</li> <li>・語彙・語句などを増やすために積極的に学び、提出物を出すことができる。</li> </ul>
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	表現とは何か	2	傾聴、共感ゲーム
		2	表現の窓
		1	語彙・語句
5	分かりやすく説明しよう	5	情報の整理伝達・取捨選択・分類・順序 接続の言葉、語彙・語句 SNS でのトラブル回避のために
	身体で表現しよう	5	発声、口調、身振り、表情 インプロの魅力
6	自分を表現しよう	3	自己分析、情報収集
		3	志望の動機、語彙・語句
		4	自己 PR、模擬面接
7	「問い」を考えよう	3	電話のかけ方
		3	手紙の書き方 語彙・語句
8	心をつかむ表現	2	表現の窓
9	話し合う力をつけよう	6	話し合いの基本 ファシリテーション いろいろな話し合い
	論理的な文章を書こう	6	小論文のタイプ・ポイント テーマ型小論文、語彙・語句
10	論理的な文章を書こう	6	課題文型小論文、データ分析型小論文
		6	文章の推敲、相互評価 語彙・語句
11	情報活用力を身につけよう	6	広報資料の作成 企画立案・取材・編集・制作 報告書の書き方、語彙・語句
	表現と読書活動	4	ブックトーク ビブリオバトル
12	説得力のある提案をしよう	8	プレゼンテーションの制作、発表
1	表現を楽しもう	3	俳句・短歌を詠む

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
歴史総合	総合ビジネス科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 詳述歴史総合～（実教出版） <input type="checkbox"/> 資料集 ダイアログ歴史総合（第一学習社） <input type="checkbox"/> ノート 詳述歴史総合 マイノート（実教出版）
------	--

科目の目標		
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代史の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそ の中の日本を広く相互的な視 野から捉え、現代的な諸課題の 形成に関わる近現代の歴史を 理解するとともに、諸資料から 歴史に関する様々な情報を適 切かつ効果的に調べまとめる 技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わ る事象の意味や意義、特色など を、時期や年代、推移、比較、 相互の関連や現在とのつなが りなどに着目して、概念などを 活用して多面的・多角的に考察 したり、歴史に見られる課題を 把握し解決を視野に入れて構 想したりする力や、考察、構想 したことを効果的に説明した り、それらを基に議論したりす る力を養う。	近現代の歴史の変化に関わ る諸事情について、よりよい社 会の実現を視野に課題を主体 的に追究、解決しようとする態 度を養うとともに、多面的・多 角的な考察や深い理解を通し て涵養される日本国民として の自覚、我が国の歴史に対する 愛情、他国や他国の文化を尊重 することの大切さについての 自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・【まとめ (Try)】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿って答えられている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモとして残している</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業 (Point)】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	<b>B 評価の規準</b> [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。 [自分なりの工夫] ・ノートについて、 <u>教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする</u> など、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。  ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、 単元テストや定期考査でも評価します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1. 近代化への胎動	4	・ヨーロッパの海外進出と市民社会 ・清の繁栄 ・東アジア諸国間の貿易 ・江戸時代の日本の対外政策
5	2. 欧米の市民革命と国民国家の形成	6	・江戸時代の社会と生活 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・ウィーン体制 ・19世紀のイギリスとフランス ・イタリア・ドイツの統一
6		5	・東方問題と19世紀のロシア ・アメリカの発展と分裂 ・世界市場の形成

6	3. アジアの変容と日本の近代化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界の改革と再編</li> <li>・南アジア・東南アジアの改革と再編</li> </ul>
7		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アヘン戦争の衝撃</li> <li>・ゆらぐ幕藩体制</li> <li>・開国</li> <li>・幕末政局と社会変動</li> </ul>
8		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新政府の成立と諸改革</li> <li>・富国強兵と文明開化</li> </ul>
9	4. 帝国主義の時代		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代的な国際関係と国境・領土の画定</li> <li>・自由民権運動の高まり</li> <li>・立憲国家の成立</li> </ul>
		7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義と世界分割</li> <li>・帝国主義期の欧米社会</li> <li>・条約改正</li> <li>・日清戦争</li> </ul>
10	5. 第一次世界大戦と大衆社会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争から韓国併合へ</li> <li>・日本の産業革命と社会問題</li> <li>・アジア諸民族の独立運動・立憲革命</li> </ul>
		7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊迫する国際関係</li> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・ロシア革命とシベリア出兵</li> <li>・大戦景気と米騒動</li> </ul>
11	6. 経済危機と第二次世界大戦	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェルサイユ体制とワシントン体制</li> <li>・西アジア・南アジアの民族運動</li> <li>・東アジア・東南アジアの民族運動</li> <li>・戦間期の欧米</li> <li>・ひろがる社会運動と普通選挙の実現</li> <li>・政党内閣の時代</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌</li> </ul>
12		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシズムの時代</li> <li>・満州事変と軍部の台頭</li> <li>・日中戦争</li> <li>・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争</li> <li>・戦争と民衆</li> <li>・敗戦</li> </ul>

1		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合と戦後世界</li> <li>・戦後と占領の始まり</li> <li>・民主化と日本国憲法</li> <li>・冷戦の開始</li> <li>・朝鮮戦争と日本</li> </ul>
	7. 冷戦と脱植民地化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦対立の推移</li> </ul>
2		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植民地の独立と第三世界の出現</li> <li>・米ソ両陣営の同様</li> <li>・日本の国際社会復帰と高度経済成長</li> </ul>
	8. 多極化する世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>・石油危機と世界経済</li> <li>・緊張緩和から冷戦の終結へ</li> </ul>
3		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協力の進展</li> <li>・日本の経済大国化</li> </ul>
	9. グローバル化と現代世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦体制の終結</li> <li>・地方紛争と世界経済</li> <li>・グローバルな認識へ</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学A	総合ビジネス科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新高校の数学A（数研出版） <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A <input type="checkbox"/> 問題集 ベストステップ数学I・A
------	--

科目の目標		
図形の性質，場合の数と確率について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%



評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○観点別目標の達成や取組の状況において</p> <p>「十分満足できる」状況と判断される場合「A」（点数での目安：7割以上）</p> <p>「おおむね満足できる」状況と判断される場合「B」（点数での目安：3割以上7割未満）</p> <p>「努力を要する」状況と判断される場合「C」（点数での目安：3割未満）</p> <p>と評価する。</p>		
<p>○知識・技能の評価問題（主に計算問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[定期考査]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○思考力・判断力・表現力の評価問題（主に応用記述問題）を理解している。</p> <p>[到達度チェックテスト]</p> <p>[定期考査]</p> <p>[授業時の解答状況等]</p>	<p>○授業に臨む態度等（日々の授業時）</p> <p>○課題（宿題）等の取組・提出状況（プリント・ノート等）</p> <p>○努力度・理解度の自己評価（到達度チェックテスト）</p> <p><b>※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえたうえで評価する。</b>（例：CCA という評価はほぼありえない。）</p>
定期考査の点数だけでなく、日々の授業の取り組みを評価します。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第3章 数学と人間の活動	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約数と倍数</li> <li>・ユークリッドの互除法</li> </ul> <p>○到達度チェックテスト</p>
5	第3章 数学と人間の活動	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2進法</li> </ul> <p>○到達度チェックテスト</p>
	●1学期中間考査		
6	第3章 数学と人間の活動	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点の位置の表し方</li> <li>・数学とゲーム・パズル</li> </ul> <p>○到達度チェックテスト</p>
	問題演習	2	・数学Ⅰ／Aの総復習
	●1学期期末考査		
7	問題演習	3	・数学Ⅰ／Aの総復習
8	問題演習	2	・数学Ⅰ／Aの総復習
9	問題演習	6	・数学Ⅰ／Aの総復習

1 0	問題演習	6	・数学Ⅰ／Aの総復習
1 1	問題演習	6	・数学Ⅰ／Aの総復習
	●2学期期末考査		
1 2	問題演習	4	・数学Ⅰ／Aの総復習
1	問題演習	2	・数学Ⅰ／Aの総復習

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
化学基礎	総合ビジネス科 ・3年生	2	

使用教材	□教科書 化学基礎（数研出版）
------	-----------------

科目の目標		
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・【まとめと練習】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・授業プリントなど説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【探究の問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	<b>B 評価の規準</b> [観察・実験] 様々な探究の過程を通して科学の方法を学び、化学的に探究する能力と態度を育てようとするものであり、化学に対する興味や関心も、しっかりとした目的意識をもって行う観察、実験によって一層高めることができる。 [自分なりの工夫] ・授業プリントに教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1 章 物質の構成	1	物質の分類と性質
		2	物質と元素
5	1 章 物質の構成	2	物質と元素
		2	物質の三態と熱運動
6	1 章 物質の構成	1	原子の構造
		3	イオンの生成
		1	元素の周期表
7	2 章 物質と化学結合	2	イオン結合とイオン結晶
		3	イオン結合からなる物質
8			
9	2 章 物質と化学結合	3	共有結合と分子
		3	分子間力と分子結晶
10	2 章 物質と化学結合	3	共有結合からなる物質
		3	金属結合と金属結晶

		3	金属
11	3 章 物質の変化	2	原子量と分子量・式量
		2	物質量
		2	溶液の濃度
		2	化学反応式
12	3 章 物質の変化	3	酸と塩基
		3	酸と塩基の分類
		3	水素イオン濃度と p H
1	3 章 物質の変化	3	中和と塩
		3	酸化と還元
2	3 章 物質の変化	2	酸化剤と還元剤
3	3 章 物質の変化	3	科学技術と化学

## 令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
生物基礎	総合ビジネス科 3 年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 i 版 生物基礎（啓林館） <input type="checkbox"/> 研究ノート（博洋社）
------	---

科目の目標		
<p>生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を計りながら，生物や生物現象についての観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	生物や生物現象を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，調査，データの分析・解釈，推論などの探究の方法を習得するとともに，報告書を作成させたり発表させたりして，科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、確認テスト等で振り返 ることができている。 ・観察及び実験の方法を正し く理解し、結果をまとめるこ とができる。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説 明できた] ・学習活動に真剣に取り組 み、仲間と協力して考え、提 案や発表ができる。 ・観察及び実験に仲間と協 力して取り組み、自分や班 の考えを記述できている。	<b>B 評価の規準</b> [粘り強さ] ・学習課題に自ら取り組み、内容も学 習内容に沿っている。 [自分なりの工夫] ・授業プリントに補足をメモしたり、 自分なりのまとめをしたりするなど、 独自の工夫及び記述がある。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に 迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主 に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	生物の特徴	2 4	生物の多様性・共通性 細胞の構造
5		1 1 3 2	生命活動とエネルギー A T P の構造 酵素 光合成と呼吸
6	遺伝子とその働き	1 2 3	D N A の構造と遺伝情報 D N A 複製 細胞周期
7		3 5	遺伝子の発現 転写と翻訳
8			
9	神経系と内分泌系による調節	1 1 1 2	恒常性と体液 心臓 血液凝固と線溶 自律神経系

10		1	内分泌系
		1	血糖濃度の調節
		1	体温調節
		2	肝臓のはたらき
		2	腎臓のはたらき
11	免疫	2	生体防御の概要
		2	獲得免疫
		2	抗体と免疫記憶
		2	免疫と病気
12	植生と遷移	2	環境と生物
		2	遷移の過程
		2	世界のバイオーム
		2	日本のバイオーム
1	生態系とその保全	2	種多様性と食物連鎖
		2	生態系と生態ピラミッド
2		5	生態系に関する調べ学習
3		2	発表会



## 令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	3 年普通科・総合ビ ジネス科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	2 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。</li> <li>・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに毎時の反省を記入し、自己評価をしようとしている。</li> <li>・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。</li> <li>・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。</li> <li>・活動の目的を理解し、実践しようとしている。</li> <li>・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保しようとしている。</li> <li>・授業に積極的に参加しようとしている。</li> </ul>
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	10	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6 7	球技（選択①）	12	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境

8	球技（選択②）	2	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
9	球技（選択 2）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
10	球技（選択③）	8	<input type="radio"/> ゴール型 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="radio"/> ネット型 <input type="checkbox"/> バドミントン <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="radio"/> ベースボール型 <input type="checkbox"/> ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・ロード走
12	陸上競技		20分間走・ロード走
1	ダンス 球技	6	現代的なリズムのダンス <input type="radio"/> ゴール型 <input type="radio"/> ネット型 <input type="radio"/> ベースボール型

## 令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語コミュニケーション Ⅱ	総合ビジネス科・3 年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> Power On English Communication Ⅱ <input type="checkbox"/> Bricks1
------	---

科目の目標		
<p>一定の支援を行えば、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり聞き取ったりできるようになる。また、それらについて自分の気持ちや考えを多様な語句や文を用いて書いたり話したりできるようになる。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常的・社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。	多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数のまとまりのある文で論理的に詳しく話して伝えることができる。	題材について必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、題材に関わる情報や自分の考えを詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・文法の意味や用法を理解している ・論理展開のディスコースマーカ－の意味や働きを理解している ・事実と意見の区別を理解している ・段落構成を理解している	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち説明できた] ・話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながらテーマについて情報や自分の考えを詳しく話したり書いたりする。	<b>B 評価の規準</b> [着実に取り組む姿勢] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表が出来る。 ・板書だけでなく教師の説明を聞き、自分なりにまとめるなど、独自の記述が3カ所以上ある。 ※寝ている人、周囲に迷惑をかける行為（私語等）をする人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5	Lesson 6 New Banknotes  <b>Sounds Interesting! 3</b>	8	<b>〔題材内容〕</b> 2024 年に新しく発行される紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事 <b>〔言語材料〕</b> It+is [was] +said+that 節, 形式目的語 it と that 節, 形式目的語 it と to 不定詞, 助動詞+have+過去分詞
5 6	Lesson7 Some Secrets about Colors  <b>Zoom in with コーパス 3</b>	8	<b>〔題材内容〕</b> 色が私たちに与える影響や色のもつ心理的效果についての論説文 <b>〔言語材料〕</b> 関係代名詞（所有格）, 同格を表す接続詞 that, 前置詞+関係代名詞, 関係副詞 where の非制限用法

7 8 9	Lesson 8  Powdered <i>Natto</i> Solves a Global Water Problem     <b>Sounds Interesting! 4</b>	8	<b>[題材内容]</b> 小田兼利博士が開発した納豆パウダーの誕生秘話と世界へ広がる様子についての論説文  <b>[言語材料]</b> 強調構文，強調の助動詞 <b>do</b> ，直前の文を先行詞とする関係代名詞 <b>which</b> ， <b>to+have+過去分詞</b>
9 10	Lesson9  Flying after Her Dreams     <b>Sounds Interesting! 5</b>	8	<b>[題材内容]</b> アメリカで黒人女性初のパイロットとなったベシー・コールマンの伝記  <b>[言語材料]</b> 譲歩を表す副詞節， <b>no matter how</b> [ <b>where, when</b> ]，仮定法過去完了，分詞構文（過去分詞）
11 12	<b>Lesson 10</b>  To Work or Not to Work?: Humans and Robots     <b>Sounds Interesting! 6</b>	8	<b>[題材内容]</b> 日本が誇るロボットやロボットの労働などについての論説文  <b>[言語材料]</b> 過去完了進行形， <b>be+to</b> 不定詞，未来完了形， <b>insist</b> など+ <b>that+S+V</b> [動詞の原形]
1	<b>Optional Reading</b>  I am Yusra. I am a refugee and I'm proud to stand for peace.	2	<b>[題材内容]</b> 競泳選手ユスラ・マルディニーニさんが難民の状況について世界に向けて伝えるスピーチ

## 令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
課題研究	総合ビジネス科3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 なし <input type="checkbox"/> 副教材 なし
------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ地域経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%



評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味、関心に関する日本の伝統文化に対する知識を口頭または記述によって表出する。</li> <li>一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。</li> </ul>	<b>B評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などを他者に表出する。</li> </ul>	<b>B評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの学習を調整しようとしているか。</li> </ul>
※日誌に書いたメモをもとに作成したレポート、スライドを用いた発表によって評価する。	※他者に伝えるためのプレゼンテーションにおける工夫などによって評価する。	※日誌における記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守等によって評価する。
特に成果があった場合はA評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・課題研究の学習内容について	1	・学習内容と評価について
	・研究内容の精査	1	・希望調査・調整
	・研究①	2	・各自の研究を進める
5	・研究①	10	・各自の研究を進める
6	・研究①	10	・プレゼンテーションソフトの活用
7	・第1回発表	4	・班内発表 傾聴者・表現者 ・資料作成、提出
8	・1学期の復習	2	・復習
9	・研究②	8	・各自の研究を進める
10	・研究②	8	・各自の研究を進める ・湧穂祭での発表準備
11	・研究② ・第2回発表	8	・湧穂祭での発表湧 ・班内発表 傾聴者・表現者 ・資料作成、提出
12	・研究のまとめ	3	・各自の研究をまとめる
1	・課題研究発表会	3	・校内発表 ・資料作成、提出 ・振り返り

## 令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合実践	総合ビジネス科・3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 総合実践 三訂版 <input type="checkbox"/> 三訂版 基本取引セット
------	---

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業の各分野の学習で身に付けた知識と技術について、実務に即して総合的に関連付け、実際のビジネスの場面に対応する際に生かすことができる知識と技術を身に付けるようにすること。	実務と関連付けられた知識、技術などを総合的に活用し、ビジネスの実務における課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。	専門的な知識、技術などを基盤としてビジネスで実践する力の向上を目指して自ら学ぶ態度、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>〔わかった・できた〕</p> <p>・単用の用語や事象について、幅広く教科書以外の文献等から知識や技術の習得ができた。</p> <p>・知識・技能の習得ができ、日常生活の事象との関連を推測できた。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔よく考え、意見を持ち、説明できた〕</p> <p>・単用の用語や事象について、現状と課題の把握ができ、自分の意見として表現することができた。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔課題や提出物が出せた〕</p> <p>・学習活動に真剣に取り組むことができた。</p> <p>・授業中の課題や授業評価や宿題等の提出ができた。</p> <p>・自分自身の意見だけでなく、他者の意見も聴き、総合的・創造的な判断ができた。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>※特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p> <p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人は C 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	※商業科での学びについて  「総合実践」の学習にあたって	1  3	・これまでの学びの振り返りと今後の学びの見通しについて  ・オフィスの仕事と「総合実践」の学習 ・「総合実践」の学習目標と内容 ・「総合実践」の学習方法
	応対の心得	3	・応対の一般的心得 ・話し方と言葉遣い ・来客との対応 ・電話による応対
5	文書の作成	8	・務における文書の重要性 ・事務用文書の役割と特質 ・文書作成の基本 ・通信文書の作成 ・取引に用いられる文書

			・ 帳票の発達とワンライティングシステム
6	文書の作成	6	演習
	代金の支払い	6	・ 小切手による支払い ・ 手形による支払い ・ 振り込みによる支払い ・ 演習
	取引開始にあたって	4	・ 取扱商品 ・ 流通経路 ・ 帳簿組織 ・ 勘定科目 ・ 企業の名称・所在地・取引銀行
7	取引開始にあたって	4	・ 各勘定残高 ・ 文書および商品の流れ
8	仕入取引	2	・ 文書および商品の流れ ・ 値段の問い合わせ
9	仕入取引	4	・ 商品の発送 ・ 商品の受け取り ・ 代金の支払い
	販売取引	8	・ 文書および商品の流れ ・ 値段の見積り ・ 商品の受注 ・ 商品の発送 ・ 代金の受け取り
10	取引のまとめ（会計処理）	12	・ 諸経費の支払い ・ 伝票の集計と転記 ・ 決算業務
11	取引開始にあたって	4	・ 取扱商品 ・ 流通経路 ・ 帳簿組織 ・ 勘定科目 ・ 企業の名称・所在地・取引銀行 ・ 演習上の注意
	総合取引演習	10	・ 演習 1 ～ 10
12	総合取引演習	10	・ 演習 11 ～ 30
1	総合取引演習	10	・ 演習 31 ～ 40
2	家庭学習		
3	家庭学習		

## 令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
観光ビジネス	総合ビジネス科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版 観光ビジネス <input type="checkbox"/> 観光ビジネス 準拠問題集
------	---

科目の目標		
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けるようにする。	観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、観光ビジネスに関する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度をもち、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B評価の規準</b> [わかった・できた]  ・単用の用語や事象について、幅広く教科書以外の文献等から知識や技術の習得ができた。  ・知識・技能の習得ができ、日常生活の事象との関連を推測できた。	<b>B評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた]  ・単用の用語や事象について、現状と課題の把握ができ、自分の意見として表現することができた。	<b>B評価の規準</b> [課題や提出物が出せた]  ・学習活動に真剣に取り組むことができた。  ・授業中の課題や授業評価や宿題等の提出ができた。  ・自分自身の意見だけでなく、他者の意見も聴き、総合的・創造的な判断ができた。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
※特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。  ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 観光ビジネスの概要	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ビジネスの担い手</li> <li>観光ビジネスの特徴</li> </ul>
	観光ビジネスの動向	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の観光ビジネスの動向</li> <li>訪日外国人観光客増加の要因</li> <li>訪日外国人観光客増加の要因</li> </ul>
5	日本の観光政策	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の観光政策の概要</li> <li>日本の観光立国への歩み</li> </ul>
	観光ビジネスと地域	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の現状</li> <li>地域の活性化と観光ビジネス</li> </ul>
6	第2章 観光ビジネスの主な産業 旅行業	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行業の役割と種類</li> <li>旅行業の特徴と業務</li> <li>旅行業法と旅行業約款</li> <li>旅行業と地域の関わり</li> </ul>
	宿泊業	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊業の役割と種類</li> <li>宿泊業の特徴と業務</li> <li>宿泊業の関連法規</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊業と地域の関わり</li> </ul>
	旅客輸送業	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅客輸送業の役割と種類</li> <li>・旅客輸送業の特徴と業務</li> <li>・旅客輸送業の関連法規</li> <li>・旅客輸送業と地域の関わり</li> </ul>
	娯楽業	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・娯楽業の役割・種類・歴史</li> <li>・娯楽業の特徴</li> </ul>
	その他の産業	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の役割と特徴</li> <li>・飲食業の役割と特徴</li> <li>・土産物店の役割と特徴</li> </ul>
7	第3章 観光ビジネスのマーケティング 観光ビジネスの顧客	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の概念</li> <li>・観光客の種類</li> <li>・観光客の行動</li> <li>・訪日外国人観光客の消費と行動</li> </ul>
	観光ビジネスにおけるマーケティングの意義	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光マーケティングの目的と意義</li> <li>・デスティネーション・マーケティング</li> </ul>
	観光ビジネスのマーケティング戦略	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ビジネスのSWOT分析</li> <li>・観光ビジネスのSTP分析</li> <li>・観光ビジネスのマーケティング・ミックス（4P政策）</li> </ul>
8	実習	1	もしあなたが地域の観光マーケティング担当者になったら
9	第4章 観光資源の発見と活用 観光資源とは何か	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の概要</li> <li>・観光資源のひろがり</li> </ul>
	観光資源の保護と保全	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の保護と保全の意義</li> <li>・保護や保全の方法</li> </ul>
10	第5章 地方自治体の観光政策の概要	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光基本計画策定</li> <li>・地方自治体の観光政策の効果</li> <li>・地方自治体の観光主管部署の内容</li> </ul>
	地方自治体の観光政策の実施内容	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報の発信・提供</li> <li>・イベントや国際会議の活用</li> <li>・観光資源の市場化</li> <li>・観光資源の管理</li> <li>・観光客を受け入れる環境整備</li> <li>・観光に関する調査の実施と観光統計の作成</li> </ul>
11	第6章 観光まちづくりとは何か	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりの概要</li> <li>・観光まちづくりと地域資源</li> <li>・持続可能な観光まちづくりのために</li> </ul>
	観光まちづくりと地域の活性化のプ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状を知る</li> </ul>

	ロセス		・観光振興策を立案する
12	発表	4	・観光振興策のプレゼンテーション
	実習	2	・地域の活性化と観光まちづくりの実践
1	実習	2	・RESASを使ってみよう
2	家庭学習		
3			



## 令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
ビジネス法規	総合ビジネス科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 ビジネス法規（実教出版） <input type="checkbox"/> ワークブック ビジネス法規準拠問題集（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 全商商業経済検定模擬試験問題集（実教出版）
------	--

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B評価の規準</b> [理解できた・完成した] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・法律条文の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、適切に整理できている。	<b>B評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・仲間と協力して取り組み、自分や班の考えを記述できている。	<b>B評価の規準</b> [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。  ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、 定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1章 法の概要 1節 ビジネスにおける法の役割	1	・ビジネスを適切に行うための法の役割について理解する。
		2	・ビジネスを円滑に行うことができるようにするため、経済のグローバル化、情報化・サービスの多様化、規制緩和など経済環境の変化に伴って法規の改正などが行われている現状について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	2節 法の体系と解釈・適用	2	・法が憲法を最高法規として体系的に存在していること、一般法、特別法、公法、私法など法の分類及び法の解釈と適用の考え方について扱う。
5	第2章 権利・義務と財産権 1節 権利・義務とその主体 2節 物と物権・債権	2	・権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて理解する。

	3 節 知的財産権	2	・特許権、実用新案権、育成者権、回路配置利用権、不正競争防止法による保護、デザインやマークなどに関する知的財産権である意匠権、商標権など知的財産の種類とその権利について、法規と関連付けて理解する。
6		2	・国際競争力の強化とビジネスを持続的に展開する際の知的財産の保護と活用の重要性及び知的財産を活用したビジネスの現状について学ぶ。
		1	・知的財産権が侵害されたときの対抗手段について扱い、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	第3章 財産権の変動 1 節 契約 2 節 物の売買	2	・契約全般について、また雇用契約、売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について、法規と関連付けて理解する。
7	3 節 物の貸借	3	・契約当事者の権利・義務関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。
		2	・売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について扱い、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
8	第3章 財産権の変動 4 節 不法行為 5 節 時効	2	・契約当事者の不法行為や時効の各関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。 ・不法行為や時効など、具体的な事例を用いて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
9	2 節 株式会社の特徴と機関	3	・株式会社の意義、株主の責任、株式の譲渡、資本と経営の分離及び株式会社の機関とその責任について法規と関連付けて理解する。
	3 節 資金調達と金融取引	2	・株式と社債の発行、金融機関からの借入及び金融商品取引法の概要を理解する。 ・資金の調達や運用と金融取引の現状・課題及び金融に関するセーフティーネットについて学び、具体的な事例を用いて、法規

			と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。 ・電子記録媒体の概要及び電子資金移動の現状・課題について理解する。
10	4 節 組織再編と清算・再建	3	・組織再編の形態について理解する。 ・日本における企業の組織再編と清算・再建の現状・課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動を理解する。
	5 節 競争秩序の確保	2	・競争秩序を確保する意義及びそのための企業活動の制限について、法規と関連付けて理解する。 ・競争秩序の確保の現状・課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し考察する学習活動に取り組む。
11	第5章 企業責任と法規 1 節 法令遵守と説明責任	3	・法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。 ・企業統治（コーポレート・ガバナンス）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	2 節 労働者の保護	2	・労働三権の概要及び労働三法、労働者派遣法など労働者の権利の保護に関する法規の概要について理解する。 ・労働時間、休日、休暇、就業規則及び労働災害に関する規定と考え方について扱う。 ・労働者の保護の重要性及び日本における労働者の保護に関する課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
12	3 節 消費者の保護	2	・消費者基本法、消費者契約法、不当景品類及び不当表示防止法、特定商取引法など消費者の保護に関する法規の概要について理解する。 ・企業活動を展開する際の消費者の保護の重要性及び日本における消費者の保護の重要性及び日本における消費者の保護に関する

			る課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。
	4 節 情報の保護	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法、不正アクセス禁止法、不正競争防止法など企業が扱う情報の保護に関係する法規の概要について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。</li> </ul>
	第6章 紛争の解決と予防 1 節 紛争の解決 2 節 紛争の予防	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公証制度の概要、和解、調停及び仲裁の目的、手続、効力並びに民事訴訟制度の概要について、法規と関連付けて理解する。</li> <li>・企業における紛争の予防と解決に関する課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。</li> <li>・国際的な紛争は国による法制度の違いが一因になっていることについて理解する。</li> </ul>
1	第7章 税と法規 1 節 税の種類と法人の納税義務	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解する。</li> <li>・固定資産税など不動産に対する税の概要と税額決定の考え方及び内国法人と外国法人の納税義務について、法規と関連付けて理解する。</li> </ul>
	2 節 法人税の申告と納付	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計と税務会計との関係、税務調整、法人税の申告と納付の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について、法規と関連付けて理解する</li> </ul>
	3 節 消費税の申告と納付	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税の仕組み、課税事業者と免税事業者の違い、課税対象、税額計算の考え方、消費税の申告・納税の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について法規と関連付けて理解する。</li> </ul>

## 令和 7 年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
財務会計Ⅱ	総合ビジネス科 3 年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 財務会計Ⅱ（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 最新段階式 簿記検定問題集 1 級会計（実教出版） <input type="checkbox"/> 問題集 簿記実務検定 模擬試験問題集 1 級会計（実教出版）
------	---

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体のかつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	3 0 %	2 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	<b>第1編 総論ー財務会計の基本概念と会計基準</b> 第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合	3	○企業の財務報告の目的、構成要素の認識と測定及び構成要素について学習する ○財務諸表におけるアプローチの方法を理解し、関連する仕訳を身に付ける ○企業会計における会計基準について学習する
5	<b>第2編 各論[1]財務会計の実際</b> 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計	6	○資産の各評価規準と評価の方法について理解し、関連する仕訳を身に付ける ○負債の意味と評価方法、また退職給付引当金について理解し、関連する仕訳を身に付ける ○純資産の意味と分類、株主資本等変動計算書について理解し、関連する仕訳を身に付ける

6	第7章 リース会計	4	○リース取引の意味と分類、各会計処理について理解し、関連する仕訳を身に付ける ○企業会計における利益と課税所得について理解し、税効果会計について主体的かつ協働的に取り組む
	第3編 各論[2]—企業活動の展開と財務会計 第8章 税効果会計		
7	第9章 外貨換算会計	4	○外貨建取引及び為替換算の意義を理解し、各取引・項目の会計処理について、関連する仕訳・計算方法を身に付ける
8	第10章 キャッシュ・フロー計算書	4	○キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性について理解し、その表示方法及び作成手続きについて主体的かつ協働的に取り組み、課題解決能力を身に付ける
9	第4編 各論[3]企業結合の会計 第11章 企業結合会計	6	○企業結合会計の意味と合併会計について理解し、主体的かつ協働的に取り組み、身に付けた仕訳・作表をICTを活用して表現する ○子会社における株式の取得・売却に関する持分の変動について学び、関連する財務諸表について理解し、主体的かつ協働的に取り組み、身に付けた技術を表現する
	第12章 連結財務諸表の作成（その1）		
10	第13章 連結財務諸表の作成（その2）	4	○持分法の意義と会計処理の方法について理解し、主体的かつ協働的に取り組む
11	第5編 財務諸表の活用 第14章 財務諸表の活用	6	○財務諸表の活用によって、企業グループの状況を把握、株価について判断し、自ら企業価値を評価する能力を身に付け、課題について協働的に取り組む
12	第6編 監査と職業会計人 第15章 監査と職業会計人	4	○財務諸表とその作成・監査・公開を規制している法律と及び監査のしくみについて理解し、財務諸表の信ぴょう性を高める手段を主体的かつ協働的に取り組む ○企業会計に関する適切な会計情報の活用とその法的根拠について理解し、会計的側面から企業の経営判断を分析する能力を身に付ける
	巻末資料 公認会計士法		
1	巻末資料 税理士法	4	○企業会計に関する税務の在り方と申告納税制度の理念について理解し、税務的側面から会計責任を果たす力を自ら学ぶ



2	家庭学習		
3	家庭学習		

## 令和7年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
プログラミング	総合ビジネス科3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 商業 725 プログラミング マクロ言語 <input type="checkbox"/> 副教材 アルゴリズムドリル
------	---

科目の目標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動に有用なプログラミングと情報システムを提供するために個別の事実に知識を記述によって表出する。</li> <li>一定の手順や段階を追って身につく個別の技術を使って表出する。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力などをプログラミングや流れ図等を用いて他者に表出する。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの学習を調整しようとしているか。</li> </ul>
※定期考査や小テスト等によって評価する。	※定期テストや話し合いの場面などによって評価する。	※ノートやレポートにおける記述、授業中の発言、教師による行動観察、宿題提出の期日厳守などによって評価する。
特に成果があった場合は A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1 章 情報システムとプログラミング 1 節 情報システムの重要性	2	・情報システム・システムの利用例
	2 節 プログラム言語の種類と特徴	2	・開発環境とプログラム言語・おもなプログラム言語・開発支援ソフトウェア
	3 節 プログラミングの手順	2	・プログラミングの位置付け・プログラムの作成手順
5	2 章 アルゴリズム 1 節 アルゴリズムの表現技法	1	・流れ図（フローチャート）・その他の表現技法
	2 節 基本的なアルゴリズム	8	・基本制御構造・マクロの基本構造・データの入出力・繰り返し処理・データの集計・条件判定（二分岐・多分岐）・最大値・最小値・コントロールブレイク
6	3 節 応用的なアルゴリズム	8	・配列の利用（一次元・二次元）・探索・順位付け・整列
	3 章 プログラムと情報システムの開発 1 節 情報システム開発の手法と手順	2	・システム開発のプロセス・ソフトウェアの開発モデル・ウォーターフォールモ

			デルのシステム開発手順・テストランとデバッグ・業務のモデル化
	2 節 プロジェクト管理	2	・プロジェクト管理 (マネジメント)・プロジェクトコストマネジメント
7	3 節 プログラムによる企業活動の改善	9	・ファイル処理を用いた情報システムの開発・条件分岐と繰り返しを用いたシステムの開発・ユーザー定義関数を用いたシステムの開発
8	3 節 プログラムによる企業活動の改善	3	・ユーザーフォームの基礎・ユーザーフォームを用いたシステムの開発
9	4 節 情報システムの開発	15	・システム化計画・売上データの CSV ファイルへの変換・CSV ファイルの読み込み・得意先データの変更・請求書の発行
	5 節 情報システムの評価と改善	2	・品質マネジメント
10	4 章 情報システムの開発演習	8	・HTML の活用
	1 節 Web ページ作成の基礎		
	2 節 スタイルシートの活用	3	・スタイルシートの活用方法
	3 節 PHP の活用	5	・PHP と HTML の連携・PHP の基本文法・PHP でのプログラムの作成
11	4 節 データベースとの連携	6	・リレーショナルデータベース・データベースの作成
	5 節 携帯型情報通信機器用ソフトウェアの活用	3	・携帯端末用ソフトウェアの開発・携帯端末用のプログラムの作成
12	6 節 オブジェクト指向型言語の利用	2	・オブジェクト指向型言語とは・オブジェクト指向型言語によるプログラム例
	5 章 ハードウェアとソフトウェア	2	・数値データの表現方法・基数変換・コンピュータで使われる補助単位・2 進数による数値の表現・誤差・論理演算・データ構造・処理内容に適した形式の変換・文字データの表現方法
	1 節 データの表現		
	2 節 ハードウェアの機能と動作	3	・コンピュータの五大装置・中央処理装置 (CPU)・メモリのしくみ・入出力装置と入出力インタフェースの種類と機能・補助記憶装置の種類・情報システムの構成
1	3 節 ソフトウェアの体系と役割	1	・ソフトウェアの体系・システムソフトウェアの役割
	4 節 情報セキュリティ	2	・情報セキュリティの目的・暗号技術・認証・リスク分析・マルウェア対策

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
フードデザイン	総合ビジネス科・3年	2	

使用教材	□教科書 実教出版 フードデザイン
------	-------------------

科目の目標		
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>〔知ること・できるようになること、の意味を理解する〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントの記入、安全への配慮と適切な道具の扱いができ、知識や技術が定着した。</li> </ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔状況に応じ周囲と共に適切に判断し、的確に行動する〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況にあった行動ができる。</li> <li>・班やグループで意見交換をして考えを深めたり、活動したりすることができた。</li> </ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔粘り強さと向上心がある〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備ができ定刻に授業を開始できる。</li> <li>・本時の学習内容を理解し、真剣に粘り強く取り組んでいる。</li> <li>・自らの学びを今後の自分に生かそうとしている。</li> <li>・締切日までに提出できた。</li> </ul>
<p>※定期考査、実技試験</p> <p>※製作物</p>	<p>※定期考査</p> <p>※実習の活動状況</p>	<p>※実習の記録</p> <p>※プリント提出</p>
<p>下のように、特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会全体または地域の課題を意識するなど、目的意識を持って学習に取り組んだ。</li> <li>・学習や実習活動が的確かつ確実であり、他を率いる存在であった。</li> <li>・自らの生活を振り返り改善できた。家族や他者への提案ができた。</li> </ul>		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	食生活と健康 調理の基本	4	食事の意義と役割、食を取り巻く現状 塩分濃度の計算
5	調理の基本 フードデザイン実習 食品の特徴・表示・安全	6	調理とおいしさ 食物調理技術検定 2 級受験に向けて 食品の衛生と安全
6	調理の基本 フードデザイン実習	8	調理操作・調味操作 食物調理技術検定 3 級受験に向けて
7	栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習	4	栄養素のはたらき 目測試験
8	食品の特徴・表示・安全 栄養素のはたらきと食事計画	2	食品の特徴と性質 ライフステージと栄養
9	栄養素のはたらきと食事計画 フードデザイン実習	8	食事摂取基準と食事計画 日常食の献立作成・日常食の調理実習
10	料理様式とテーブルコーディネート フードデザイン実習	8	料理様式と献立 日本料理・中国料理
11	料理様式とテーブルコーディネート フードデザイン実習	6	日本の食文化 郷土料理・西洋料理
12	料理様式とテーブルコーディネート フードデザイン実習	4	テーブルコーディネート 饗応食・行事食
1	食育	2	食育の意義と推進活動
2			
3			